

事業実績書

1 補助事業の名称

狩猟を中心とした地域貢献

2 補助事業の成果

狩猟及び狩猟に関する知識・理解

- ・新メンバー加入により、狩猟免許の取得者が増えた。
- ・狩猟に関する施設や話を見聞きしたことにより、獣害被害や狩猟について学ぶことができた。
- ・狩猟に携わる方との繋がりを新たに持つことができた。

鳥獣被害の現状の把握とその対策活動

- ・鹿の防護柵の補強や植林を通じて山の木々を守るお手伝いができた。
- ・農家さんのお手伝いをすることで、獣害被害の状況や対策方法について知ることができた。
- ・農家さんとの繋がりをもつことができた。

鳥獣被害とその対策を広い世代に伝える普及活動

- ・活動報告により、狩猟についての知識を普及することができた。
- ・子どもから年配の方まで狩猟鳥獣について関心を持ってもらうことができた。
- ・小学生へ野生動物が山から下りてくる理由や狩猟の必要性などについて理解してもらうことができた。
- ・狩猟に対する具体的なイメージを持たせることができた。
- ・小学生による学習発表により、お互いに学びのある取り組みとなった。

3 補助事業の内容

(1)実施月日 狩猟活動 令和元年8月1日～2月29日

徳島大学との合宿 令和元年9月5日～6日

香美市狩猟フォーラム 令和2年2月1日

春野町での農家さんのお手伝い 令和元年 11月 14日

香美市子どもエコクラブへの活動への参加 令和元年 10月 14日

ブラッシュアップ会 令和元年 6月 1日、令和2年 2月 15日

本山町社会福祉協議会での出前授業、鹿角アクセサリー作成 令和元年 8月 27日

第2回もくもくエコランド 森林環境学習フェア 令和元年 10月 26日

大柵小学校への出前授業 令和2年 1月 14日

香美市狩猟フォーラム 令和2年 2月 1日

パンフレット作成 令和2年 2月 10日

(2)場 所

高知県内諸地域

徳島県三好市周辺施設

(3)参加人員

18名

(4)事業内容

- ・狩猟及び狩猟に関する知識・理解  
狩猟活動、徳島大学との合宿、香美市狩猟フォーラム
- ・鳥獣被害の現状の把握とその対策活動  
香美市こどもエコクラブの活動への参加、春野町の農家のお手伝い
- ・鳥獣被害とその対策を広い世代に伝える普及活動  
ブラッシュアップ会、社会福祉法人 本山町社会福祉協議会での出前授業・鹿角アクセサリー作成、第2回もくもくエコランド 森林環境学習フェア

以下の事業報告書に詳しく説明する

4 その他（市民等との協働）

猟友会の方や先輩ハンターのお話やアドバイスを受けて、場所の移動や見回りの方法など試行錯誤した。

高知商業高等学校の生徒さんに鹿角アクセサリー作成体験ブースのお手伝いをしていただいた。紐の結び方の手順を覚えていただきサポートに回っていただいた。

備考

- 1 複数事業をパッケージ化し一体的に実施した場合は、個別事業ごとに事業実績書を作成してください。
- 2 用紙の大きさは、日本工業規格A4縦長としてください。
- 3 用紙が不足する項目は、別紙としてください。

事業実績書

1 補助事業の名称

狩猟活動(準備及び実施、猟場の探索)  
(狩猟及び狩猟に関する知識・理解)

2 補助事業の成果

- ・新メンバー加入により、狩猟免許の取得者が増えた。
- ・狩猟に関して学びの多い1年になった。
- ・準備期間の見通しや年間スケジュールを組む上での参考になった。
- ・イノシシ1頭の猟果を挙げる事ができた。
- ・今年度の反省や良かったことを次年度に活かせるように、振り返りアンケートを行い、課題点や良い点を振り返ることができた。

3 補助事業の内容

(1)実施月日 令和元年 8月 1日 ~ 2月 29日

(2)場 所

香美市土佐山田町林田地区

(3)参加人員

14人(うち狩猟登録者11人)

(4)事業内容

9月30日、狩猟に向けた活動が始まり、猟場の探索を行った。狩猟期間外では狩猟免許の取得、先輩からの指導の下、罟製作の手順、罟の設置の仕方・練習、猟場の探索から山の歩き方・見回りの流れを学び、狩猟への準備が行われた。その他の事業の取り組みから、獣害被害の現状の把握や狩猟に関する知識を学んでいった。

狩猟期間になると、経験者が付き添いのもと、罟とトレイルカメラの設置、見回りルートの確保などを行った。初心者たちが作業に慣れ始めると、見回りのシフト表を組み、ほぼ毎日見回りが行われるように体制を整えた。また罟の増設や見回り以外に増設ポイントの探索を行うなど、猟期後半の狩猟をより良いものにしていった。

結果、2月28日にかけて罟の1つにイノシシ1頭がかかっていた。メンバーが集合し、先輩猟師の方の協力を得て解体し、得られた肉を様々な方法で余すところなく食した。

今年度の狩猟を終えて、メンバー全員にアンケート形式でフィードバックを行った。そこで挙げた意見や課題について話し合いを行い、対策や体制、次年度の取り組み方を考えていく。

4 その他(市民等との協働)

猟友会の方や先輩ハンターのお話やアドバイスを受けて、場所の移動や見回りの方法など試行錯誤した。

## 事業実績書

### 1 補助事業の名称

ブラッシュアップ会

〈鳥獣被害とその対策を広い世代に伝える普及活動〉

### 2 補助事業の成果

- ・活動報告により、狩猟についての知識を普及することができた。
- ・他団体の活動報告を受けて、学生が地域で活動することの難しさを再認識することができた。
- ・他団体の事例から、団体の運営の仕方や地域活動を行う上で有効的な方法を学ぶことができた。

### 3 補助事業の内容

(1)実施月日 令和元年 6月 1日、 令和2年 2月 15日

(2)場 所

高知大学 朝倉キャンパス

(3)参加人員

6月1日 5人

2月15日 2人

(4)事業内容

高知大学コラボレーションサポートパーク主催のブラッシュアップ会（以下BU会）へ参加した。当団体は以前コラボレーションサポートパークの補助を受けていたが、現在は団体として自立した卒業団体という扱いである。BU会は年4回の実施だが、そのうち2回参加した。コラボレーションサポートパークの補助団体やBU会に参加した団体が活動報告を行い、それぞれの活動についてグループディスカッションを行った。

### 4 その他（市民等との協働）

様式第9号（第11条関係）

## 事業実績書

### 1 補助事業の名称

社会福祉法人 本山町社会福祉協議会での出前授業、鹿角アクセサリー作成  
〈鳥獣被害とその対策を広い世代に伝える普及活動〉

### 2 補助事業の成果

- ・小学生に対しての授業進行のイメージを掴むことができた。
- ・小学生へ野生動物が山から下りてくる理由や狩猟の必要性などについて理解してもらうことができた。
- ・小学生、高齢者でも簡単にアクセサリー作成ができる方法を知ることができた。
- ・アクセサリー作成が高齢者からの評判が良いということを知った。
- ・本山町社会福祉協議会の方から、また企画をお願いしたいとのお声掛けをいただいた。

### 3 補助事業の内容

(1)実施月日 令和元年 8月 27日

(2)場 所

本山町社会福祉協議会

(3)参加人員

7人

(4)事業内容

小学生へ質問形式の授業とその内容に沿った短時間の劇を行った。実際に狩猟で使っている罠を持参し、作動した様子なども見てもらった。授業後、鹿角アクセサリー作成をしてもらった。その際、施設の役員の方も作成に参加された。作業内容は、鹿角の研磨と紐を結ぶことの2つである。その後、施設にいらっしゃっていた高齢者の方と昼食をとった。午後からは高齢者の方へ、団体活動の紹介とアクセサリー作成を行った。その際、高齢者の方から思い出話を聞くなどの交流をした。

### 4 その他（市民等との協働）

本山町福祉協議会の方に、施設内に事業内容の宣伝チラシの掲示や場所の提供、交流する上での細かいサポートなどをしていただいた。

様式第9号（第11条関係）

## 事業実績書

### 1 補助事業の名称

徳島大学との合宿

〈狩猟及び狩猟に関する知識・理解〉

### 2 補助事業の成果

- ・狩猟に関する施設や話を見聞きしたことにより、獣害被害や狩猟について学ぶことができた。
- ・鹿の解体を初めて見る者もあり、解体の手順や捌き方など勉強になった。
- ・同世代の団体との交流より、活動へのモチベーションを向上させることができた。

### 3 補助事業の内容

(1)実施月日 令和元年 9月 5日 ～ 令和元年 9月 6日

(2)場 所

徳島県三好市周辺施設

(3)参加人員

6人

(4)事業内容

徳島大学の狩猟サークルと合同で合宿を行った。ジビエ料理を提供する民宿へ宿泊し、現役猟師である宿の主人から狩猟や解体後の骨の加工についてなど話を聞いた。また解体処理場にて鹿の解体の見学、また徳島大学が師事している猟師の話を聞くなど、狩猟に関する知識を深めた。食事などで親交を深め、活動報告や最終日に合宿での振り返りを行うことで、お互いに良い影響を与え合うことができた。

### 4 その他（市民等との協働）

## 事業実績書

### 1 補助事業の名称

香美市こどもエコクラブの活動への参加  
〈鳥獣被害の現状の把握とその対策活動〉

### 2 補助事業の成果

- ・鹿の食害が最も深刻だった時の写真と蘇った森の写真を比較して、それについての説明を受け、防護作業の必要性などについて知ることができた。
- ・実際に食害を受けた木々の様子を見て、現在の三嶺の様子を知ることができ、その様子を SNS 等で通じて発信することができた。
- ・鹿の防護柵の補強や植林を通じて山の木々を守るお手伝いができた。
- ・香美市の獣害被害の対策について大学生として取り組むことができた。
- ・子ども達と一緒に取り組むことで、これから未来を担う者達への教育の手伝いができた。

### 3 補助事業の内容

(1) 実施月日 令和元年 10月 14日

(2) 場 所

三嶺の山

(3) 参加人員

3人

(4) 事業内容

香美市こどもエコクラブの活動に参加し、子ども達のサポートをしながら作業を行った。植林したブナの幼木が育つようにするため、ブナの周りのリュウブなどの雑草や雑木を刈る作業が行った。こどもエコクラブの人々の解散後、鹿の防護柵の建て直しを行い、壊れているところの補強を行った。

### 4 その他（市民等との協働）

香美市こどもエコクラブの活動に参加させていただき、木々を守る対策や被害の現状を知る機会を得られた。

様式第9号（第11条関係）

## 事業実績書

### 1 補助事業の名称

第2回もくもくエコランド 森林環境学習フェア  
〈鳥獣被害とその対策を広い世代に伝える普及活動〉

### 2 補助事業の成果

- ・鹿の頭蓋骨、未加工の鹿角を展示したことで、子ども達にも“本物の動物”を感じてもらうことができた。
- ・クイズを通して、子どもから年配の方まで狩猟鳥獣について関心を持ってもらうことができた。
- ・罨の展示をすることで、学生という立場でも狩猟ができるということを知ってもらうことができた。
- ・銃を使わない猟があることも知っていただき、怖いイメージばかりではないことを伝えることができた。

### 3 補助事業の内容

(1)実施月日 令和元年 10月 26日

(2)場 所

高知市中央公園、帯屋町1丁目アーケード

(3)参加人員

5人

(4)事業内容

罨の展示、狩猟鳥獣に関する簡単なクイズ、アクセサリ作成体験ができるよう、ブースを展開した。イベントにはスタンプラリー企画があったこともあり、多くの方々にブースに訪れていただくことができた。そこでクイズや交流をすることで狩猟について関心を持ってもらうことができた。クイズや鹿の頭蓋骨、未加工の鹿角は子ども達からの関心・興味を引く良い材料になった。

### 4 その他（市民等との協働）



様式第9号（第11条関係）

## 事業実績書

### 1 補助事業の名称

春野町の農家のお手伝い  
〈鳥獣被害の現状の把握とその対策活動〉

### 2 補助事業の成果

- ・猪や鹿の侵入を防ぐお手伝いをした。
- ・農家さんのお手伝いをすることで、獣害被害の状況や対策方法について知ることができた。
- ・農家さんから「学生がいると元気になる」「また手伝いに来てほしい」というお声をいただくことができ、農家さんとの繋がりをもつことができた。

### 3 補助事業の内容

(1)実施月日 令和元年 11月 14日

(2)場 所

高知市春野町

(3)参加人員

4人

(4)事業内容

春野町のキャベツ・ブロッコリー畑での鳥獣対策の作業をお手伝いした。畑に電気柵とネット柵を設置した。また猪や鹿は蹄があり竹の上は滑りやすいため歩きづらく嫌がる。そのことを活かし、竹を半分に割ったものを飛び越えられない間隔で畑の周囲に敷き詰めた。作業終了後、農家さんと様々なお話をした。

### 4 その他（市民等との協働）

農家さんから被害状況や、畑への対策方法を聞いた。

様式第9号（第11条関係）

## 事業実績書

### 1 補助事業の名称

大栃小学校への出前授業

〈鳥獣被害とその対策を広い世代に伝える普及活動〉

### 2 補助事業の成果

- ・小学生に「なぜ狩猟をしなければならないのか」について知ってもらうことができた。
- ・狩猟に対する具体的なイメージを持たせることができた。
- ・小学生だけでなく、担任を含めた教諭にも狩猟について興味を持ってもらうことができた。
- ・小学生による学習発表により、お互いに学びのある取り組みとなった。

### 3 補助事業の内容

(1)実施月日 令和2年 1月 14日

(2)場 所

香美市立大栃小学校

(3)参加人員

5人

(4)事業内容

小学生に対し、狩猟の必要性や狩猟の方法・流れについて知ってもらうため、出前授業を行った。指導案に複数のパターンを用意し、より多様な内容を教えられるようにすることで、小学生の「狩猟に対する意識や元々の知識の差異」に対応できる形式をとった。グループワークで狩猟の流れを考えてもらい、より具体的にイメージをしてもらえるように努めた。また講義式の授業にならないよう、質問形式の授業進行とグループワークにより参加型授業になるよう構成した。

### 4 その他（市民等との協働）

今回授業を行った学校は、外国人へのインタビューやジビエについてなど特色ある学習を行っていた。出前授業終了後、小学生が学習している内容についての発表があった。

## 事業実績書

### 1 補助事業の名称

香美市狩猟フォーラム

〈狩猟及び狩猟に関する知識・理解〉

〈鳥獣被害とその対策を広い世代に伝える普及活動〉

### 2 補助事業の成果

- ・スライドによる活動報告や、鹿角アクセサリー作成体験のブースを展開し、多くの方に「土佐の懸橋 ハンプロ」について知ってもらうことができた。
- ・ジビエや皮細工などの加工産業や販売までの流れなど、狩猟以外のことについて学ぶことができた。
- ・来客の方からアクセサリーのデザインや作成についての意見をいただいた。
- ・ほかのブースの方と交流をし、狩猟についてのアドバイスや参考になる話を聞くことができた。
- ・狩猟に携わる方との繋がりを新たに持つことができた。

### 3 補助事業の内容

(1)実施月日 令和2年 2月 1日

(2)場 所

香美市社会福祉協議会 香北支所

(3)参加人員

10人

(4)事業内容

香美市狩猟フォーラムに参加し、午前は報告会で令和元年度の活動報告を行い、午後から鹿角アクセサリー体験ブースを開いた。ブースでは未加工の鹿角を写真撮影用に展示した。また鹿角アクセサリーの紐の結び方をホワイトボードにイラストで描き、作業内容が分かりやすいように努めた。作業は鹿角の研磨と紐を結ぶことの2つである。体験にいらっしやった方には1人ずつサポートをつけた。

### 4 その他（市民等との協働）

高知商業高等学校の生徒さんに鹿角アクセサリー作成体験ブースのお手伝いをしていただいた。紐の結び方の手順を覚えていただき、サポートに回っていただいた。

様式第9号（第11条関係）

## 事業実績書

1 補助事業の名称

パンフレット作成〈鳥獣被害とその対策を広い世代に伝える普及活動〉

2 補助事業の成果

・ハンプロの令和元年度の活動についての広報資料を作成することができた。

3 補助事業の内容

(1)実施月日 令和2年 2月 10日 ～ 2月 23日

(2)場 所

高知大学 物部キャンパス学術図書館

(3)参加人員

5人

(4)事業内容

令和元年度の活動を顧みて、メンバーで話し合いを行い、高知大学の新入生や外部向けの資料を作成した。内容としては、ハンプロが狩猟を行っていることやその理由、また狩猟以外にも小学校での授業や鳥獣被害対策活動も行っていることを書いた。

4 その他（市民等との協働）

## 補助事業の実施状況が確認できる書類

6月1日 ブラッシュアップ会



## 補助事業の実施状況が確認できる書類

9月5、6日 徳島大学 合同合宿



補助事業の実施状況が確認できる書類

10月13日 香美市エコクラブ 三嶺を守る会



補助事業の実施状況が確認できる書類

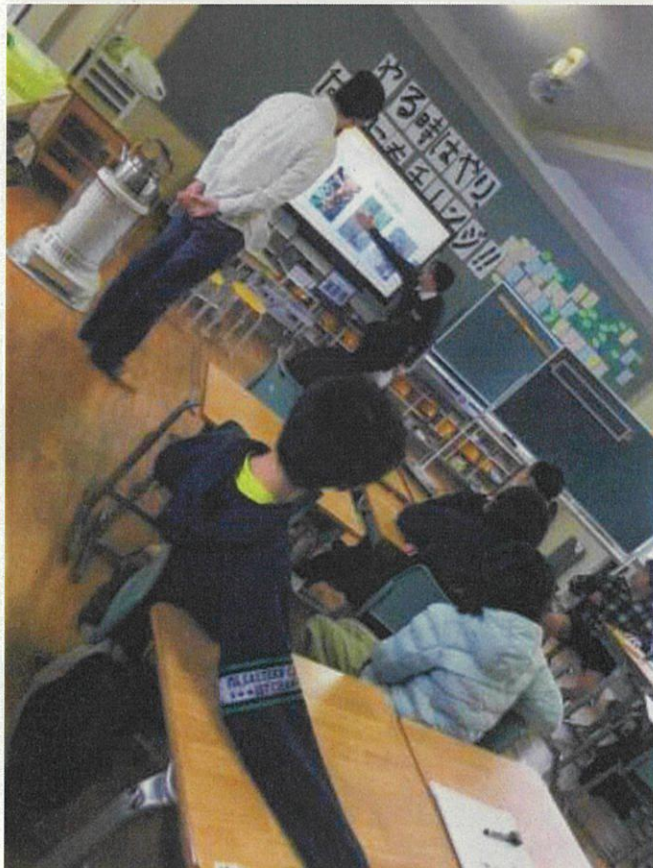
10月26日 もくもくエコランド





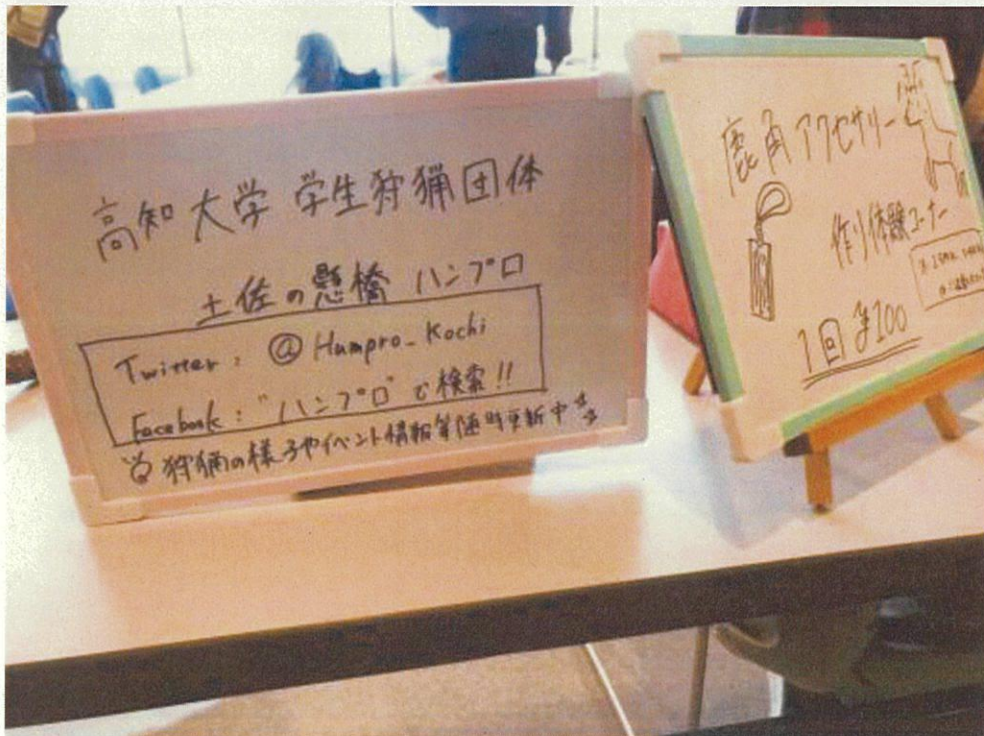
補助事業の実施状況が確認できる書類

1月17日 大栃小学校 授業



## 補助事業の実施状況が確認できる書類

2月1日 香美市 狩猟フォーラム



補助事業の実施状況が確認できる書類

2月28日 イノシシ捕獲



補助事業の実施状況が確認できる書類



# 補助事業の実施状況が確認できる書類

制作したパンフレット

### ハンプロ 2019年度 年表

- 6/1 ブラッシュアップ会
- 8/27 本山町  
社会福祉協議会での事業
- 9/5,6 徳島大学 合同合宿
- 10/13 香美市エコクラブ  
三嶽を守る会
- 10/26 もくもくエコランド参加
- 11/4 春野町 農家さんのお手伝い
- 12/17 大板小学校での授業
- 2/1 香美市狩猟フォーラム

**土佐の懸橋 ハンプロ**

活動人数：13人  
2019年狩猟者登録者数：9人  
2017年12月発足



**ハンプロ代表 埴田 有沙**

このパンフレットは私たちがサークルとして実際に狩猟をし、それに基づいて考え、作成したものです。一概にこれが学生による狩猟というわけではありません。しかし、これを通じて特に学生や若い世代の方が狩猟について少しでも興味を持っていただければ嬉しいです。

## 高知大学 学生狩猟団体

### 土佐の懸橋 ハンプロ

狩り



土佐をいかす

---

土佐の懸橋 ハンプロ  
実行責任者：埴田 有沙 編集責任者：小松 謙  
2020年2月発行  
Email: humpko@kochi-u.ac.jp

 @Humpko\_Kochi  
 <https://www.facebook.com/groups/287714933349604/?ref=share>

**私達はハンプロといいます！**  
学生たちで協力して  
**狩猟**を行っています！

みんなで作業を分担して見回りや  
罠の設置を行っています

なぜ狩猟をするのかというと・・・

現在の中山間地域や山の麓の農家さんは  
**イノシシやシカによる被害**などによって  
**甚大な被害を被っているから**です

鹿による角こすりー  
こうなってしまう木は垣根  
などにぶっ壊れてしまうた  
のぼれてしまいます

→ 一歩近くの猪の足跡

このようにいまだに  
多くの被害が出て  
います。

**他にも様々な事業を行っています！**

**三嶽での  
鹿対策ネットの設置**

子どもたちと一緒に鹿の食害の現  
場を見せてもらったり  
経験したブナの周りの成長を助け  
るワークショップなどを開きました

**大板小学校での  
授業**

小学生に講師になったつもりで  
狩猟の流れを覚えてもらったり  
実際に使う罠を見てもらいました

**ハンプロメンバーの声**

山に実際に入ったり、小学生や地域の  
古く幅広い年齢層と触れ合うことがで  
き、充実した生活を送っています。人と  
話したり、野外に出て活動することが  
大好きな私にぴったりの場所です！

地域の自然は座学では理解しきれない部分  
が多いように思います。実際にフィールド  
で自然に触れると狩猟に対するイメージや  
考え方も変わるので、その点も学生という  
立場からもっと発信していきたいです！



※ 農林水産省の発表による